

巻 頭 言

呼吸器領域における新年の展望
—第56回日本呼吸器学会学術講演会開催にあたって—
呼吸器病学 2016 知の基盤と未来を築く

Pulmonary Medicine 2016 Developing Intellectual and Future Innovations

会長挨拶 橋本 修

President: Shu Hashimoto

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年4月8日(金)から10日(日)の3日間、国立京都国際会館とグランドプリンスホテル京都において第56回日本呼吸器学会学術講演会を開催いたします。会員また将来呼吸器病学を学び研鑽されることを志す研修医・学生の皆様多数のご参加をいただきますようお願い申し上げます。

日本大学医学部内科学系呼吸器内科学分野(旧第一内科学教室)としては、1977年(昭和52年)第17回学術集会を故萩原忠文教授(準備委員長岡安大仁教授)、2004年(平成16年)第44回学術集会を堀江孝至教授が担当されました。堀江孝至先生に引き続き本学術集会の会長を務めさせていただく機会を与えていただきました会員の皆様に感謝申し上げます。

今回の学術講演会のテーマは「呼吸器病学 2016 知の基盤と未来を築く」です。「知」の基盤を築き、「未来」を指向し築きたいと思えます。このためには「温故知新」という言葉にもありますように、「歴史を知り、現在を理解し、未来を展望する」ことです。「現在を理解し、未来を展望する」には科学的事実の蓄積の歴史を知り先人のたゆまない努力に感動することであると思えます。さらに、多くの人と交流し互いに感化されることも必要と思えます。

「知の基盤と未来を築く」を反映したプログラムとし

て、堀江孝至先生の司会で呼吸器病学の礎を築いた福地義之助先生、工藤翔二先生、貫和敏博先生による「呼吸器病学の知の基盤」セッション、若手医師の企画による「シンポジウム：知の未来 Future Directions with rising son and daughter」, 「モバイル & ウェアラブル 端末が変える呼吸ケアの未来」を企画しました。分子レベルから病態形成や治療方法の選択・効果を考察する思考性を養成する「症例を臨床から分子レベルまで考える」のプログラムを編成しました。本学会に学術部会が設立され、内容が充実しつつあります。さらに充実を図るための企画として「Year in Review およびセッションの終了後の学術部会の集会」を設けました。学術部会の充実には海外の学術部会との交流も重要です。本学会では、本学会のアレルギー・免疫・炎症部会、細胞・分子生物学術部会がそれぞれ American Thoracic Society (ATS) の Allergy Immunology and Inflammation Assembly (AII Assembly), Cell and Molecular Biology Assembly (RCMB Assembly) が共同して企画した Inter-Assembly Symposium を設けました。近年、呼吸器疾患に対する治療薬の開発が進み選択の幅が広がってきました。この背景もあり、本会では COPD, 喘息, 間質性肺炎・肺線維症, 肺癌, 肺感染症の各領域における治療に関する Pro and Con セッションを設けました。

基調講演は、睡眠時無呼吸症候群のみならずさまざまな呼吸器疾患と睡眠は関連が深く、睡眠学全般にわたりに造詣の深い内山 真先生にお願いしました。招請講演は Stephen I. Rennard 教授 (University of Ne-

braska Medical Center, USA) (COPD), Pascal Chanez 教授 (Aix Marseille Université, France) (気管支喘息), Jan Lötvall 教授 (Göteborgs Universitet, Sweden) (エクソソーム研究), Martin Kolb 教授 (McMaster University, Canada) (間質性肺炎・線維症), Augustine M.K. Choi 教授 (Weill Cornell Medical College, USA) (COPD 基礎研究), Younsuck Koh 教授 (Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine, Korea) (急性肺傷害), 鴨下一郎 衆議院議員 (医療行政) をお招きしています。特別講演は吾妻安良太 教授 (日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学分野) 「Unmet needs; オーハン医薬品開発の足跡」, 一ノ瀬正和 教授 (東北大学大学院医学系研究科呼吸器内科学分野) 「COPD: 病態理解から新治療法開発へ」, 門田淳一 教授 (大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座) 「呼吸器疾患とマクロライド Overview—30 年の歴史から紐解く治療戦略—」, 高橋和久 教授 (順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科) 「肺癌分子標的治療を振り返り将来を語る」, 玉置 淳 教授 (東京女子医科大学第一内科) 「慢性咳と痰のインパクト: ベンチからベッドサイドへ」, 東田有智 教授 (近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科) 「気管支喘息—現状の課題と今後の展望—」 にお申し込みました。その他, シンポジウムは「呼吸器疾患解析・治療応用が期待されるテクノロジー」をはじめ 13 題, 他学会との共同企画は COPD の身体活動性を科学する (呼吸ケア・リハビリテーション学会) との共同企画をはじめ 5 題, 教育講演 20 題, 症例検討会, 特別企画を予定しています。この他, International Symposium を企画しています。International Symposium は 2001 年, 第 41 回日本呼吸器学会学術集会の際に福地義之助 先生が従来の国際交流をさらに発展させるために ATS, European Respiratory Society

(ERS), Asia Pacific Society for Respiriology (APSR) から 1 名ずつ演者を招請し, COPD, 喘息, 間質性肺炎, 肺癌などそれぞれの領域についてのシンポジウムが開催されたことに始まり, その後, 日本呼吸器学会と各学会 ATS, ERS, APSR は正式な覚え書き (Memorandum of Understanding: MOU) を締結し, 毎年, 開催されています。この経緯は, 当時本学会を運営されていた先生と事務局, ATS, ERS, APSR, それぞれの学会の事務局長であった Carl Booberg 氏, Archie Turnbull 氏, 佐藤さんの尽力の賜物と思います。さらに, 2014 年に韓国呼吸器学会 (Korean Academy of Tuberculosis and Respiratory Disease: KATRD) と MOU を締結し, 毎年 2 名の演者をそれぞれの学会に招請しております。本学術集会には, Younsuck Koh 教授と KS Jung 教授を招請しています。

学術集会最終日の 4 月 10 日 (日) 午後 2 時~4 時の予定で市民公開講座「文化の源流を探る」を開催いたします。講師として橋本 悟 氏 (メリーランド大学講師) 「東アジア文化の正義」, 姜 尚中 氏 (東京大学名誉教授) (演題未定) を迎え, グローバリゼーションの中での東アジア地域に居住する私たちの源流と未来について講演をいただき, 講演終了後に対談を企画しております。

誰しもが一度は経験した「知の興奮を覚える」の再びの機会であり, また, 多くの方々に心に残る学術集会になりますように, プログラム委員, 本学会事務局, 運営担当者, 当科事務局責任者高橋典明, 権 寧博はじめ医局員一同が互いに協力し一丸となって準備しております。4 月上旬の京都は大変に混雑します。ご予定は早めに計画され多くの方々が参加されますようお願いいたします。